

---

# 会報

第4号

岐阜大学教育学部同窓会

---

## ご理解とご協力を



会長 宮川 清司

県内外でご活躍の会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察し、およろこび申し上げます。

本会は平成7年度に組織の再編成を試みて以来、順調に運営されてきております。これも会員の皆様方のご理解とご協力の賜と喜んでおります。また、母校の教育学部も多難ななかで前、現学部長の強い指導性のもとに先生方が一丸となって「大学改革」に対応され、地域に密着した教育を展開していただいていることを喜び、また感謝しております。

さて、平成10年度の本会の事業について概略を述べ、さらなるご理解とご協力を得たいと思います。

### ■「岐阜大学開学50周年記念事業」への参加、協力

既にご案内の通り、この事業は教育学部同窓会が農学部、工学部、医学部の各同窓会と共催して平成11年6月を期して実施される事業です。このため趣意書を同封し、すべての会員の皆様に募金をお願いしましたところ、県内外から若年、高齢を問わず多くの会員の方々からご芳志をお寄せいただいております。お蔭さまで7月末現在で当初の目標額を超えることができました。なお、募金の締切日は平成11年3月末となっております。有志の方で未だの方のご協力をお願いします。

### ■開学50周年を記念して、教育学部独自で「同窓会会員名簿」の作成、発刊

会員名簿は同窓会の組織運営の基本であり、「相互の親睦を図る」（会則第2条）ためにも必要です。しかし諸般の事情で昭和56年以来、発刊しておりません。このたび、ようやくもろもろの条件が整い、機運も熟して参りまし

たので、平成11年秋を目途に発刊する計画を策定することができました。ご理解とご協力をお願いする次第です。

#### ■会報第4号を全会員に直接送付

同窓会の動向や岐阜大学の現況等を記載した本号を、第3号に引き続いて事務局から直接お届けします。このために要する事務量は膨大で、経費も莫大ですが同窓会運営の基本にかかわることとして実施します。

#### ■第14回教育実践研究助成事業の継続実施

ご承知のように、この事業は岐阜県教育の振興充実に願って発足した事業です。財政・上運営上の諸問題を抱えながらも、初志を貫いて今日に至っております。お蔭様で県教育委員会の後援と教育事務所、教育センターの諸先生方のご指導とご協力を得て、小中学校の教育現場に定着し、年々所期の成果をあげてきております。

本年度もこの事業を実施しますので引き続いての参加及びご支援、ご協力をお願いします。なお、岐阜県教職員互助会がこの事業の長年にわたる実績をお認めくださり、本年度から助成金を交付していただくことになりました。感謝しつつお知らせいたします。

#### ■在学生（準会員）の就職活動の支援

教育学部の学生は私たちの後輩であり、本会の準会員です。いまこの学生の皆さんが「教職」に就くことは採用数の絶対減等の悪条件が重なり、極めて厳しい状況にあります。こうしたなかで、同窓会としても学生や先生方への要請に応じて出来る範囲で積極的に支援していきたいと考えております。

## 平成10年度 評議会記録

開催日時：平成10年5月30日(土)

13時30分～15時30分

場 所：岐阜大学教育学部本館第1会議室

出席者数 49名、委任状 106名、計155名

来 賓 教育学部長 木下康彦 先生

[議事] (議長：宮川清司会長)

### 1. 平成9年度事業報告

#### (1)総務部会

- ・大学50周年記念事業の募金を会員に依頼した。募金は順調にすすんでいる。
- ・広報(第3号)を総務部で会員に直送した。発送作業はかなりの労苦であった。

#### (2)組織部会

- ・大学各講座会員名簿の整理を進めてきた。この名簿にしたがって広報と募金依頼を発送した。

#### (3)事業部会

- ・教育実践論文集を完成した。この事業は13年目となる。

#### (4)広報部会

- ・広報(第3号)を発行した。募金依頼と広報発送を同じくしたので、発行時期が12月となった。

### 2. 平成9年度決算報告、監査報告

- ・平成9年度決算報告と監査報告があり、承認した。

### 3. 会則の改正

- ・会則改正の提案があり、承認した。

### 4. 会長候補者推挙委員会内規

- ・会長候補者推挙委員会内規の提案があり、種々議論の結果、これを承認した。
- ・会長候補者推挙委員会内規による会長候補者推挙委員会委員の投票を行い、次の5名の委員を選出した。

小瀬渺美氏、松野知文氏、船戸政一氏、大澤肇氏、丸山春雄氏

### 5. 平成10年度事業

#### (1)総務部会

- ・教育学部同窓会として大学50周年記念事業に協賛する主旨で、教育学部同窓会会員名簿を刊行する提案があり、承認した。
- ・会員名簿の刊行は、組織部会と連携してすすめる。

#### (2)組織部会

- ・総務部会の意向を受け、会員名簿の刊行をすすめる。

#### (3)事業部会

- ・前年度同様、今年度も教育実践論文事業をすすめる。

#### (4)広報部会

- ・前年度同様、今年度も会報を発行する。発行時期はもう少し早めたい。

### 6. 平成10年度予算

- ・平成10年度予算案の提案があり、承認した。

### 7. その他

- ・組織部長に加藤直樹氏を承認した。

## 教育学部の現状と課題

岐阜大学 教育学部長 木下 康彦



平成10年10月大学審議会の「21世紀の大学像と今後の改革方策について」という答申について教育職員養成審議会の「修士課程を積極的に活用した教員養成の在り方について」という答申が出されました。昨年7月の教育職員養成審議会の第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」を含め、教員養成系大学・学部には様々な課題が提起されました。教養審の第1次答申に基づいた教員養成カリキュラムの改善は、教職免許法の改正という形で、現在各大学のカリキュラムの改善を迫っています。

ご承知のように、大学、特に教員養成学部をとりまく状況は非常に厳しいものがあります。我が国の18歳人口は平成4年度の約250万を頂点とし減少期に入り、平成10年度は約162万人、平成20年度には約120万人となります。大学及び短期大学への入学者も平成21年度には、平成8年度より10万人減少すると予測されています。小中学校の児童数の減少はこれに先立つもので、教員採用数は各都道府県で低く抑えられています。5000人削減実施により、国立大学の教員養成課程の規模は、今後15年足らずの間に半減することになります。学生定員の削減が行われても、各都道府県とも教員採用の状況は教員養成課程の学生にとって厳しいものです。一方、学校教育に課題が山積しているだけに、国立大学の教員養成には、様々な改革、改善が要請されています。教員養成カリキュラムの改善、修士課程の拡充とこれを活用した教員養成、現職教員の再研修機会の拡大等です。

### ①学部改組

こうした状況の中で上記のような岐阜大学教育学部の改組が進められて来ました。教育学部は、平成8年の地域科学部設置に伴い、教育学生定員の70名を新学部に移行し、教育学部に生涯教育講座を新設しました。この段階では学生定員は270名でしたが、さらに平成9年、文部省が打ち出した教員養成系大学・学部の学生定員の5000人削減計画に対応して改組を行いました。従来の小学校教員養成課程と中学校教員養成課程を学校教員養成課程(学生定員200)に一本化し、養護学校教員養成課程(学生定員15)、平成10年より発足させた教員免許取得を卒業要件しない新課程である生涯教育課程(学生定員35)と併せて学生定員を250人としました。

### ②カリキュラム改革

岐阜大学教育学部でも、教育職員免許法改定にともない、学部カリキュラムの根本的な改善を進めています。教員養成課程は、課程認定をうけたあと、平成12年度から新しいカリキュラムが実施されます。また今年度から発足した生涯教育課程は課程運営委員会を設け、従来の講座の枠を越え、新しいカリキュラムをつくり、学生指導に当たる体

制を整えました。今後教職以外に分野に進出する学生が増えることを予想して、生涯学習関係の種々の資格(学芸員、スポーツ指導員、認定心理士、社会教育主事など)が取得できるカリキュラムをつくりました。また教員免許取得を武器として学校教育以外の方でも活躍できる幅広い資質をもった人材を育成できるように学部教育内容に検討を加えていきたいと考えています。

### ③社会人入学(学部3年編入)

生涯学習社会に対応し教育学部も社会人入学の試行を行っています。平成10年度11月に行われた編入試験では、14名の応募者がありました。(この原稿の段階では入学許可者数は未定)

### ④大学院の拡充

大学院教育学研究科は前後藤学部長のもとで、整備が進められ、今年度発足した障害児教育専攻を含め、3専攻(学校教育、障害児教育、教科教育)10専修(教科教育専攻の中の国語・社会科・数学・理科・音楽・美術・保健体育・家政教育・英語教育)が整いました。学生定員は学校教育専攻6人、障害児教育専攻3人、教科教育専攻33人です。大学審議会、教育職員養成審議会は大学院の役割として研究者養成に加え高度専門職業人養成を重視することを強調しています。教育学部の大学院修士課程は現職教員の再教育を推進することが期待されています。岐阜大学教育学部も教育学研究科に14条特例による現教員を受け入れていますが、さらに現職教員の研修・研究の機会を拡大するため公開講座・遠隔授業など様々な取組みを行い、また新しい試みを進めようとしています。

### ⑤遠隔授業・公開講座による大学院講義

平成7年度より大学院の公開講座を開講し、平成9年度には岐阜一高山を結ぶテレビ会議システムのネットワークで遠隔授業を実施、平成10年度には岐阜大・付属・高山

実施した講義・講座は以下のようなものです。

年度	遠隔講義名	実施場所	実施期間	受講生数
H 7	大学院公開講座開始	岐阜大学	10～12月	1 1 7 名
H 8	同上	岐阜大学	9～12月	2 7 0 名
H 9	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山市	10～12月	1 6 0 名
H10	大学院遠隔講義 (科目等履修性の受講)	岐阜大学、同附属学校、高山市 岐阜県生涯学習センター	6～8月	1 8 1 名
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学、高山市、中津川市 郡上郡八幡町	10～11月	1 6 0 名
	大学院連携公開講座	岐阜大学、新潟大学、香川大学	10～12月	1 3 0 名

市・県教育センターを結び科目等履修生の大学院遠隔授業を、また岐阜・高山・中津川・郡上八幡を結ぶ大学院公開認定講座、岐阜大学・新潟大学・香川大学を結ぶ大学院連携 公開

講座を実施しました。受講者はこれで6単位修得すれば専修免許が得られます。

#### ⑥平成11年度 飛騨地区での大学院夜間・遠隔授業開設 一県・地区の協力による

現在、飛騨地区教育長会、県教育委員会と協議を進めながら平成11年度飛騨地区における現職教員を対象とした大学院夜間・遠隔授業開設の準備を進めています。既設の学校教育専修の大学院授業を夜間・遠隔で飛騨地区において開設する予定です。

#### ⑦夜間・遠隔授業の開設地区の拡大

大学院の夜間・遠隔授業は現職教員及び教育関係者等の受講機会を確保するため、今後飛騨、美濃、東濃の3地区において当面サテライト教室を設置し、テレビ会議システムにより大学院の修士課程の学修ができるように計画を進めています。また公開講座、科目等履修生のために大学院の講義が受講できるようにする。地域の要請に応じサテライトの増設も検討しています。このためには地域との連携強化し教育委員会、学校管理職の方々のご協力も仰がなくてはなりません。教育関係者に同窓の方々が多いことが岐阜大学教育学部の強みでもあります。地域の教育開発力の向上を目指し、大学と地域の教育関係機関との連携を保ち、夜間・遠隔大学院を運営できればと考えております。現職の教員の方々が大学院で研究・研修を行うためには夜間の他、休日の集中講義も加え、現職者の勤務を配慮し受講条件を整え必要があります。

#### ⑧夜間・遠隔大学院授業開設と新専攻設置の要求

飛騨、美濃、東濃における夜間・遠隔大学院授業開設と大学院の学生定員増の概算要求を行います。夜間・遠隔大学院は、時代や地域のニーズに応えたものにするため「新専攻」或いは「新分野」を設置し、現職教員及び教育関係者の大学院レベルでの研修・研究を行い、高度の地域教育開発能力をもった人材を育成することを目的とします。そのためには、以下のような研究分野が今後必要と考えられます。

- ① 新しい教育に対応する多様なカリキュラムの開発などの研究
- ② 学習システム、遠隔教育システムの開発などの研究
- ③ 複合的な内容など新しい教育実践課題の開発研究

その他大学院・生涯教育講座・郷土博物館・遠隔授業実施のための施設の整備、校舎建設など課題は山積しています。教育学部も時代の変動の中で大きく変わろうとしています。厳しい時代ではありますが、教育学部の輝かしい伝統の上に、地域の教育・文化に貢献できる人材を養成できる学部として変身を遂げて生きたいと思っております。同窓の方々の熱いご支援と同時に厳しいご助言も期待しております。

# 教育学部学生の平成10年度就職状況

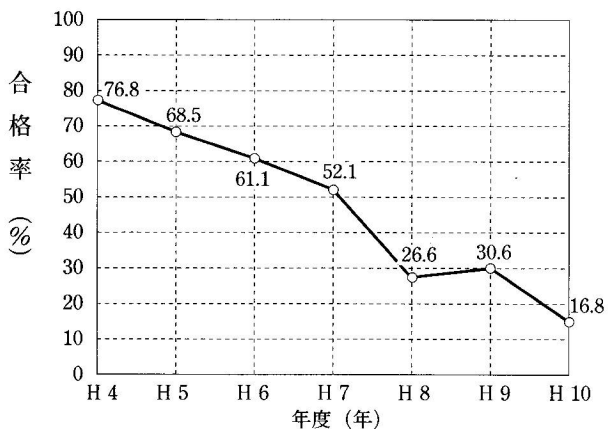
総務部会長 渡邊 義行

教育学部改革の事業はほぼ終わりに近づき、やや落ち着きを取り戻しているのが学部の実況といえよう。しかしながら新免許法によるカリキュラム改訂作業は平成12年度実施を目指してこれからの問題である。新免許法によれば、教科科目の単位数を現在の約1/2にし、教職科目を現在の約2倍の単位数とする改訂である。カリキュラムを編成するには、教育学部の理念と教育する学生像を明確にしながらの再編成となる。しかしながら、教員養成を主たる柱としている教育学部にとって、卒業後の教員採用に関する道は険しいと言わざるを得ない。平成10年岐阜県教員採用予定数は小学校約60名、中学校約30名の計約90名である。この採用予定数はかつてなかった少ない数である。

このような折、平成10年本学の教員採用試験を受験した学生は172名であった。平成10年10月岐阜県教員採用試験本学合格者数は僅か29名であった。合格率にして16.86%ということになる。本学の教員採用試験の合格率を平成4年度からの推移図で表してみた。図のように、平成8年、9年と低迷を続け、さらに平成10年は追い打ちをかけるように過去最低の合格率であることがわかる。岐阜県教員採用数そのものの減少が、このような結果として表れてきたのである。さらに、平成8年度から積み残した臨採希望者の増大も、現役卒業生の門を狭くしているといえよう。今後は卒業生と現役を加えたトータルな見方で本学の教員採用数をとらえていかなければならないだろう。このことは、本学における教員採用のための指導は、その対象を現役学生と卒業生にも拡げて対応していく必要を物語っている。今後、岐阜県の教育は岐阜師範学校から岐阜大学教育学部が担ってきたという自負と責務の認識をさらに強めて、この危機を乗り越える以外に道はないと考える。

職種別就職状況の表を見てみよう。この表は、平成10年3月卒業生の結果である。教員(含、臨採)となった者は31.9%の1/3で、残る2/3は教職以外の職種に就職せざるを得ない状況であった。平成7年度の時には約半数が教職に就けた時代と比較してみた。平成7年度と比べて平成10年度は、一般会社へ就職した者が20.3%→29.8%に増大した。大学院へ進学した者が8.6%→11.4%に増大、家事等が10.8%→13.4%に増大した。つまり、教員になれなかった分が、一般会社と家事等と大学院へと進んだとみることができる。したがって現今の教育学部学生の卒業後の進路は、教員1/3、一般会社1/3、大学院・公務員・家事等1/3といえよう。このように教育学部学生の2/3が教職以外の道に進む時代となったことは、真摯に受け止めなくてはならない。教育学部で学び、育んだ資質を各分野で発揮していただき、活躍してもらいたいと願う次第である。

(平成10年10月記)



教育学部学生の岐阜県教員採用試験受験者に対する  
年度別合格率（%）推移

教育学部学生の職種別就職状況  
(平成10年3月卒業生 351名)

職 種	%	平成7年度 卒業生の就 職状況%
教員（含、臨採）	31.9	50.2
公務員	10.8	9.8
大学院	11.4	8.6
卸業・小売業	7.1	} 一般会社 29.8
サービス業	6.8	
出版・印刷業	4.8	
機械・電気等製造	3.1	
銀行・証券	2.3	
通信	1.4	
建設業	1.1	
医療保健	1.1	
化学工業	0.9	
衣服・繊維等	0.6	
不動産業	0.6	
家事等	13.7	10.8
その他	2.4	0.3



# 平成9年度 教育実践研究助成事業のまとめ

事業部会長 大澤 肇

特色ある同窓会事業として、各方面から注目され、期待も寄せられている平成9年度の「教育実践研究助成事業」は、入賞論文集（第13集）の発刊をもつて完結しました。以下、その概要を報告します。

## ◆事業のの定着化

この事業は、「岐阜県教育の振興、充実に期す」ことを目的にして出発して以来13年が経過しました。この間、岐阜県教育委員会、市町村教育委員会、教育事務所、教育センター、小中学校長会等の全面的なご理解とご協力、ご指導を得て、今や「岐大論文」として、好評のうちに小中学校の教育現場に定着した感があります。

## ◆各層にわたる応募者、多様な取り組み

- ・ 応募者総数1417名を数え、この数は、実に県内教職員の8人に1人にあたります。これだけ多くの応募があったことをうれしく思います。
- ・ 1417名の内、管理職33名、養護教諭44名、栄養職員4名、事務職員3名、教諭1333名という内訳になっています。世代別では、20代547名（39%）30代の547名（39%）、次いで40代288名（20%）という数字を示しています。その中で、学校運営の担い手として重要な役割を果たす40代の応募が増加傾向にあることは特筆すべきことです。
- ・ 研究内容も全教科、全領域にまたがり、継続的、累積的に内容を集約したものが多くみられます。主題も情報化、環境、福祉、総合学習の取り組みなど今日の教育課題に対応し多様化しています。入賞者の論文はそれらの頂点に立つものとして一読に値します。別掲の一覧表を参照し、機会をみて一読して頂ければ幸いです。

## ◆「入賞論文集」の充実

- ・ 関係諸経費の縮減を試みる一方で、論文集は昨年度にない質、量とも充実に努めました。論文集（13集）は、サイズをA4版で、130ページの構成になっています。入賞論文の概要、歴代入賞者名簿（論文名、教科領域名等を記載）を登載しました。実践研究の内容や傾向の把握、研究交流資料として活用して頂ければと願い収録しました。また、審査の講評も載せて紙面の充実を図りました。
- ・ この論文集は、県内の全小中学校、教育関係機関、入賞者、同窓会役員等に贈呈しています。

## ◆平成10年度も実施

平成10年度（14回）教育実践研究助成事業は、平成9年度に準じて実施しています。なお、本年度から岐阜県教職員互助会よりこの事業への実績を認めていただき助成金を交付していただくことになりました。

## 各同窓会の活動

### 数学科(事務局 岐阜大学教育学部附属中学)

- 1) 会員数 1部:1196名 2部:78名 計1274名
- 2) 会員名簿:「わしょう」は毎年7月に発行
- 3) 平成9年度活動報告

#### ①総会

開催日 :平成9年5月10日(土)

会場 :教育学部本館7階 第一会議所

記念講演:「数学的言語表現とその改善と方策」

岐阜大学教育学部教授 岩田 恵司先生

実践研究発表:岐南町立岐南中学校 今井田 明弘先生(37期)

:坂祝町立坂祝小学校 杉江 麻美先生(43期)

総会開催周期:毎年(5月第2土曜日を原則とする)

#### ②夏季研究会

毎年各地域をまわり、その地域の先生方との交流を深めながら夏季研究会を開催している。

開催日:平成9年8月24日(土)

会場 :郡上郡高鷲村 民宿「和田屋」

実践研究発表 :東白川村立東白川小学校 早川 英勝先生(44期)

:輪之内町立輪之内中学校 宇野 聡先生(40期)

研究会開催周期:毎年(8月下旬)

### 音楽学科・音楽教育講座(事務局 理事長 棚橋 弘)

音楽学科・音楽教育講座同窓会という名称の一部変更を6月14日(日)の理事会で決定しました。理事会は54名の参加で議決しました。

当面の事業としては第11回総会及び懇親会を本年11月8日(日)午前11時からホテルグランヴェール岐山(旧岐山会館)で多数の新旧岐大の諸先生をお迎えして実施します。会報第28号及び第11訂名簿を当日付けで発行いたします。

### 理科(物理)(事務局 加茂郡八百津町八百津378 鈴村 雅史)

- 1) 同窓会名簿の作成(8月)
- 2) 総会開催の予定(12月)

## 理科 (化学) (事務局 羽島郡柳津町佐波2093-2 華井 章裕)

平成9年度総会(8月10日)約30名出席

- 1) 役員改選 新会長 所 貞男氏
- 2) 講演 「小中学生のためのわくわくドキドキ科学実験」
- 3) 懇親会 次回は平成11年の予定

## 障害児教育 (事務局 岐阜市立岩小学校 中村 正信)

柚木 穠教授御退官記念の会(最終講義・記念出版を含む)

- 1) 期 日 平成11年2月の予定
- 2) 参加者 同窓生及び関係者200名

昭和40年代の当初、岐阜大学教育学部に障害児教育学科が設置されて以来、長年にわたって、岐阜大学のみならず県内外の障害児教育の発展に寄与されました柚木教授の御退官にふさわしい記念の会になりますよう準備を進めています。

## 学校教育 (事務局 岐阜大学教育学部学校教育科 宮本 正一研究室)

同窓会役員会

- 期日 平成10年10月24日(土)
- 議事 同窓会名簿出版、役員改選、同窓会総会等について

## 家政学科 (事務局 岐阜市神田町1-1 市教育委員会学校保健課内 藤井佳代子)

- 1) 平成10年度の活動
  - 名簿作成(年次者向け)
- 2) 今後の活動予定
  - 総会開催予定 平成11年8月予定
  - 名簿作成(平成11年夏に、全員に配布予定)
  - 懇親会

## 体育学科 (事務局 岐阜大学教育学部保健体育講座)

- 1) 総会、還暦を祝う会、懇親会  
平成10年6月13日 長良川観光ホテル「石金」にて開催
- 2) 保健体育講座学生の優秀選手表彰(平成9年度)  
平成10年2月21日 岐阜大学保健体育棟にて授与式開催
- 3) 体育学科同窓会50周年記念事業実行委員会を構成  
事業内容 ①記念講演会の開催(平成11年11月13日開催予定)  
②記念誌の発行

③記念モニュメントの建立

**社会科**(地理)(事務局 羽島市竹鼻町3176 竹鼻中学 豊島 博)

1) 第24回 濃飛の集い(総会・実践発表、懇親会)

- 期日：平成10年8月1日(土)
- 場所：各務原産業センター

※毎年8月第1土曜日に開催。38歳に達した卒業生が当番をつとめる

2) 機関誌「濃飛」第29号発刊

3) 関根清先生退官記念事業

- 祝賀会 期日：平成11年2月13日(土)  
場所：ホテルグランヴェール岐山

## 「二四会」を語る

戦後の復興によりやく明るい兆しが見えはじめた昭和24年3月、私たちは岐阜師範学校を卒業した。あの長良の学舎で苦楽をともにした同級生の集まりを「二四会」と呼んで仲のよさと結束の固さを自慢にしている。

卒業後しばらく、県内外の各地で親睦を目的に、それぞれ任意に行われていた同窓の集いを、昭和42年にまとめて「二四会」とした。男子部1・2・3組、女子部4・5組の総勢220名でスタートした。

さらに、昭和52年には将来を見通した”会の規約”を整備した。この規約に従って、基金として一人壹万円の終身会費を出し合うことになった。当時では「ちょっと高いかなあ」という声もあったが、その拠出率は100%に近かった。担当幹事の努力もさることながら、会員の結集のよさがそこにみられた。

実は、この基金のおかげで、「二四会総会(親睦会を兼ねて情報交換を行う会)」を定期的に行うことができた。

総会は、隔年に岐阜地区・西濃地区・美濃加茂地区・東濃地区・飛騨地区の順に六会場で行われ、各地区ごとにそれぞれの地域文化を織りこみ、趣向をこらしているのが楽しい。(会の目的には<地域の教育文化に貢献する>という申し合わせがある)。

来年は東濃地区で、平成13年には飛騨地区で総会が開かれるが、これで県内を2周して一応ひと区切りすることになる。会員からは「以後もできるだけ継続していこう」という声が高まっている。

また、規約によって、恩師・会員の不幸に際して、会としての弔意を表すことを具体的にしてきたが、「あの時の基金を定期預金したことがそれを可能にした」という思いを強くする。発案者の先見性を改めて評価したい。

こうして「二四会」の動きについて語るとき、そのすべてにわたり、いつも”縁の下の力持ち”となって尽力した女子組幹事諸姉の努力とその活躍に敬意を表したい。

(二四会世話人総代 宮脇 修)



## 「開学50周年記念事業」をめぐる

教育学部独自の事業として「会員名簿」の発刊も企画

■寄付金のご協力ありがとうございます。お蔭さまをもちまして当初の目標額を越える金額となっております（9月末日現在）。締切の期限は平成11年3月末日です。未だの方はご厚志をお寄せください。

■その際、振込用紙の裏面の記載事項のご記入をお忘れなくお願いします。何科の何年卒の方か、所属毎の寄付者名簿を作成致す予定ですのでぜひご協力をお願いします。

■目標額を越えた金額は、懸案の「会員名簿」の作成、発刊の費用の一部に充てることにしました。幸い、各科同窓会のお骨折りで、精度の高い名簿がほぼ出来上がり、データベースに入力されつつある現状です。加えて、この種の名簿作成に実績のある専門業者に作成、発送、販売などの煩雑な事務を一切委託することができました。しかも、比較的合理的な価格設定であることにより、全学あげて実施される「50周年記念事業」の一環として、教育学部独自の事業を計画することが可能となりました。

■この会報第4号とともに、名簿作成に関する事務的な内容の文書を同封してお届け致します。ご協力いただきますようお願いいたします。なお、卒業年や年度の表現に若干の混乱がありますので、あらためて下記のように統一して掲載しますのでお間違えのないようお願いします。下掲はその一例です。

師範系→卒業した年。昭和23年3月に卒業した方→（昭23）

大学系→卒業した年度。昭和40年3月に卒業した方→（昭39）

■名簿の編集等発刊に伴う事務は、部内に編集委員会を設置して対応しております。内容も記念誌としてふさわしいものになるよう会員名簿はもちろん学校の沿革、思いでの写真等も載せたいと考えております。発刊予定は平成11年11月頃を目標としております。ご期待ください。

■「記念式典」及び関連事業については別掲のように、実施する運びで基準がすすめられております。なお、会員の皆様へのご案内は会報の発刊期日の関係で出来かねます。報道その他の情報によりご参加いただくよう今からお断りとお願ひしておきます。

## 岐阜大学開学50周年記念事業概要

岐阜大学開学50周年記念事業は以下のとおり企画・推進中です。今後より具体的になってまいります。また未確定な部分が多くあります。現段階での情報をお知らせします。会員皆さんの多数の参加をお願いします。

岐阜大学開学50周年記念事業は、次の5つの柱で計画しています。

1. 記念誌発行事業……記念誌の発行
2. 記念物事業………モニュメント建立
3. 記念行事等事業……記念講演会  
大学祝典歌の制定  
岐阜大学の四季 (写真・絵画展)
4. 大学公開等事業……市民に公開する諸事業
5. 記念式典及び祝賀会

大学公開等事業の内容と日程 (予定)

平成11年5月23日 (日) 「岐阜大学周回マラソン大会及び市民体力診断」  
(教育学部)

5月29日 (土) 「障害者 (児) ・高齢者支援の最前線」

6月1日 (火) 記念式典・記念講演会及び記念祝賀会

1日 (火)

5日 (土)

6日 (日)

5日 (土)

6日 (日)

5日 (土)

6日 (日)

12日 (土)

「VRによる『世界文化遺産—白川郷—』」

「自然環境との共生」

「岐阜大学柳戸地区施設見学ツアー」

「農場でガーデニングとアイスクリーム作り」

「シンポジウム新農業基本法下での地域農業振興」

「今地球が危ない」 環境問題を中心とした講演会

「こどもがきれる」

「障害者 (児) ・高齢者のよりよい生活をめざして」

「アニマルセラピーと介護動物」

12日又は19日又は26日 (未定)

「20世紀とは何だったのか？」

7月24日又は25日 「今、地球が危ない」 バイオサイエンスの立場から環境、資源、エネルギー、食糧問題を考える

## ■お詫びと訂正

会報第3号の9ページ下段から4行目と3行目に次の方々の挿入をお願いします。

谷田 道夫 (昭24青師) 503-1531	不破郡関ヶ原町大高104-61	0584-43-0822
堀 邦子 (昭24青師) 501-1135	岐阜市木田24	239-2256
宮部 繁一 (昭25青師) 502-0931	岐阜市則武若竹町307-47	231-5619

## 編集を終えて

■会報をできるだけ早く皆様にお届けしたいと念じてこの作業に取り組みましたが、諸般の事情から今日に至りましたことをお詫び致します。名簿を作成の話が具体的に進みだしたのが8月。全会員にあらためて住所等を確認の必要があるということになり、ならば会報を届ける際に便乗しては…ということで、原稿依頼等の作業は、名簿発刊事務の進捗状況にあわせる結果になりました。

■今回も教育学部の現状と課題について木下学部長から玉稿をいただきました。地域に密着した大学づくりの方向と在り方に同窓会として双手をあげて賛同し、物心両面にわたって出来るだけの支援を続けていきたいものです。

■それにしても教職に就くことをめざす後輩の皆さんの希望をほとんどかなえられない現状の厳しさにいらだちを感じます。冬の時代はいつまで続くのでしょうか。

第4号 平成10年11月発行

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

発行者 宮川 清司

岐阜大学教育学部内

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

TEL・FAX 058-293-2344